

平成27年度  
西表島西部に生育する希少種ヒルギモドキ  
生育状況調査報告書

2016/03/31

九州森林管理局 計画保全部  
西表森林生態系保全センター

## 西表島の絶滅危惧種のアヒルギモドキについて

### 1 はじめに

アヒルギモドキは、熱帯及び亜熱帯のマングローブに生える常緑の小高木で、高さ 10m に達する。日本では、沖縄県（沖縄本島、久米島、石垣島、小浜島、西表島）のみに自生し、沖縄本島が分布域の北限となっている。沖縄県では、樹高 4m 程度の個体が多く、マングローブ植物の中では陸化した湿地に生育している。埋め立てや開発によって自生地が消失したり、潮流の変化等によって生育環境が悪化し自生地や個体数が急減しており、環境省のレッドデータブックの中で、ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種である絶滅危惧 IA 類（CR）に分類されている。

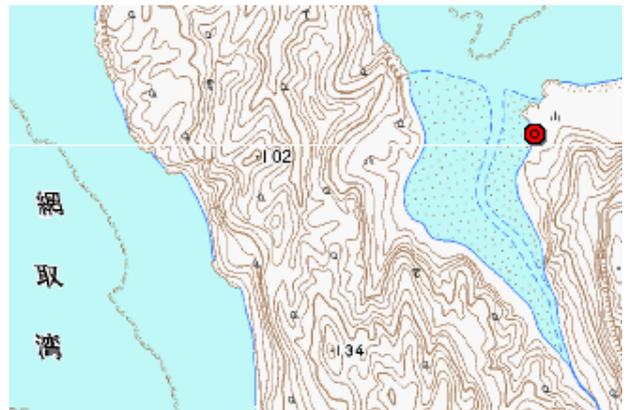
当センターでは、平成 18 年度に西表島のアヒルギモドキの生育状況について調査を行ったところであるが、今回、西表島西部地域の陸路でのアクセスが困難な舟浮集落とサバ崎の間にある入り江と内離島に生育が確認されている個体について備船して経過調査を行ったので、その結果を報告する。

### 2 生育地の概況

#### 1) ユナラ川

##### ①所在地

沖縄県八重山郡竹富町字西表国有林  
162 い林小班  
位置図は右記を参照



##### ②周辺状況

舟浮集落とサバ崎の間にある入り江に生育し、周囲にはオヒルギ、ヤエヤマヒルギ、メヒルギ、シマシラキ、アヒルギダマシ（絶滅危惧 IB 類）が生育している。

#### 2) 内離島

##### ①所在地

沖縄県八重山郡竹富町内離島  
位置図は右記を参照



##### ②周辺状況

内離島北部の私有地に生育し、周囲にはオヒルギ、ヤエヤマヒルギ、メヒルギ、シマシラキ、アヒルギダマシ（絶滅危惧 IB 類）、ニッパヤシ（絶滅危惧 II 類）が生育している。

### 3 調査結果

#### 1) ユナラ川

①生育数 3本

②平均樹高 3m、平均胸高直径 5cm

前回調査と同様に生育個体を確認しました。

生育個体は径も大きく根も張っていることから近い間に枯損することはないものと思われる。

また、生育地は海岸線に面した入り江で、徐々に進行した河岸浸食により、マングローブの生育適地が僅かに残った場所であるが、これから急な河岸浸食を受けることはないと思われる。



ユナラ川のヒルギモドキ

#### 2) 内離島

①生育数 数十個体

②平均樹高 2m、平均胸高直径 4cm

前回調査と同様に生育個体を確認しました。

生育個体は大小様々で集団ではないが近隣に生育している。生育地は海岸線に隣接した箇所であることから、台風等による高潮による影響で砂浜や小沢からの土砂流入が見られるが、現時点では大きな問題はないと思われる。



内離島のヒルギモドキ

### 4 まとめ

内離島の生育地については以前、放牧が行われた箇所とその跡地にマングローブ 6 種が生育しており、絶滅危惧 IA 類のヒルギモドキ、絶滅危惧 IB 類のヒルギダマシ及び日本では 2 箇所ではか生育していない絶滅危惧 II 類のニッパヤシなどの希少な植物が生育していることから、何らかの法律や条例で保護を検討することが必要ではないかと考えており、今後においても有識者や関係機関と情報の共有に努めていくこととする。

また、両生育地においては、西部地域の陸路アクセス困難地に僅かに生育する希少なマングローブであるため、引き続き定期的なモニタリングを行っていくこととする。

### 5 その他

平成 28 年度のヒルギモドキ調査については、西部地域の陸路アクセスが可能な与那田川、稲葉、浦内川、船浦、古見の生育地について調査を行うこととしている。

特に浦内川の生育地については、県道浦内橋の架け替え工事に向けて、今年度から橋台のボー

リング試験等の調査が開始されている。このため、情報の共有を図る必要があることから、ヒルギモドキ生育地の保全に関する留意事項を沖縄森林管理署に提出し、県土木事務所へ説明を行った。平成 28 年度調査においても調査結果について、情報の共有を図ることとしたい。

平成 28 年 3 月 31 日  
西表森林生態系保全センター

## 【参 考】

機密性 2

担当者限り

事 務 連 絡

平成 28 年 2 月 15 日

沖縄森林管理署長 殿  
(担当：総括森林整備官)

西表森林生態系保全センター所長  
(担当：生態系管理指導官)

### 浦内橋架け替え工事に伴う疎通について

浦内橋の架け替え及びそれに付随した各種工事が計画進行中と思われるが、橋左岸側付近のマングローブ林内には、環境省のレッドデータブックで、ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い絶滅危惧 IA 類 (CR) に分類されているヒルギモドキが数十個体生育している。

このヒルギモドキは日本では、沖縄県 (沖縄本島、久米島、石垣島、小浜島、西表島) のみに自生し、沖縄本島が分布域の北限となっている。西表島では、浦内のほか星立、稲葉、船浦、古見などに生育しているがその個体数は少ない。

このようなことから、当工事における一時使用等の申請に関しては、事業主体である県に対して下記に留意するよう署からの指導をお願いします。

### 記

#### 留意事項

- 1 極力伐採しないよう配慮すること。
- 2 資材置き場や資材運搬路、重機路などを設置するにあたり、地形改変や土砂等の搬入を行う場合にあっては、原形復旧が無論であるが現地盤高を維持すること。  
(過去の工事において、土砂搬入が理由で地盤が上がりアダンやクサトベラ、外来種であるモクマオウなどの陸生植物の侵入を招いた箇所が見られるため。)
- 3 なお、自主的環境調査によって影響評価がなされ有識者の指導の下、別途対策を講じる場合はこの限りでない。

## ヒルギモドキについて

- 1 和名 ヒルギモドキ
- 2 学名 *Lumnitzera racemosa*
- 3 科及び属 シクンシ科ヒルギモドキ属
- 4 特徴 根：他のマングローブとは違い地上に根を出しません。  
幹：幹は褐色でざらついています。  
葉：葉は、小さく互生し光沢があり、卵形で先がくぼんでいます。  
花：花弁は5枚で、小さくて白い花をつけます。  
実：実は緑色で、長楕円形をしています。



幹



葉



花



実